

系 車

編集 山形村ふるさと伝承館



▲ 下大池橋爪西 塩原家の祝殿

祝殿いわいでんさこま

屋敷の一隅や、これに続いた
区画、あるいはやや離れた持地
の山林などに祀られている神を
一般的には「屋敷神」というが、
中信地方では「祝殿」という。

祝殿の多くは同姓の家が数戸
ないし十数戸で祀るもので、そ
れが原則であつたろうが、近隣
の異姓の者も含めた仲間で祀つ
ている祝殿もある。

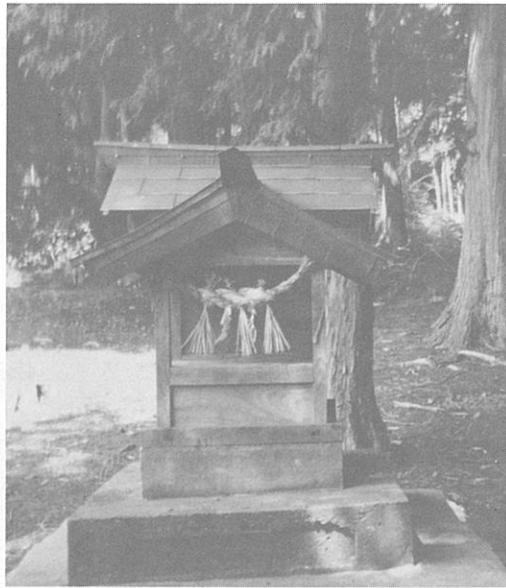
祠は元来森や林の中または大
きな樹の下などに建てられた
が、祭神については祖霊とい
うより稲荷、金山彦、熊野権現な
ど世に知られた神が多い。

祝殿と「祝」の字をあててい
るが、本来は「斎い殿」で、祭
場という意味であらう。

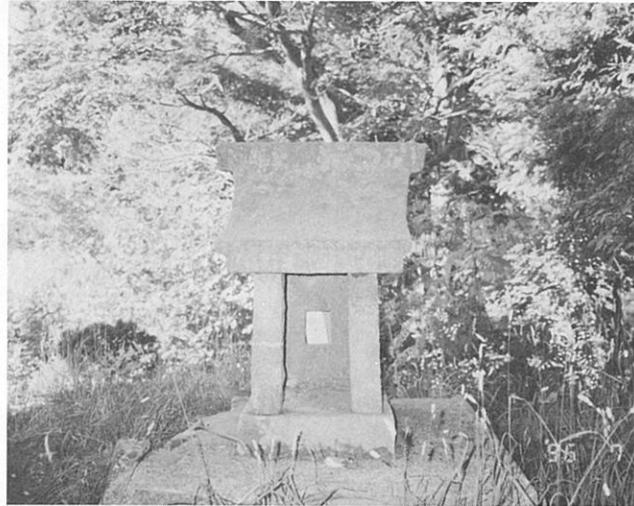
ひっそり佇む祝殿さま

【上大池】

上大池には祝殿様の祠が十一存在する。諏訪神社境内に七社、他に四社が祀られている。祀られている神様は稲荷様が九社、八幡宮・神明宮・荒神様が各一社となっており、社殿の形態は春日造が一社で、他はすべて流れ造である。鳥居が建っている祠は五社で、鳥居の造りは神明鳥居・鹿島鳥居が一基、八幡鳥居が三基である。お祭りは三月に行う所と十一月に行う所があるが、年一回行われる。そのうちのひとつに飯綱権現稲荷大明神という祝殿様がある。話を聞いてみると、あの戸隠山に近い飯綱山の稲荷信仰を中心とした山岳真言密教から生まれた稲荷様で、管狐を使い妖術を使うと恐れられていたようである。



▶上大池 諏訪神社境内にある飯綱権現稲荷大明神



▲中大池 津島様

【中大池】

津島様は寛政十一年、疫病が大流行した際、悩まされた民衆が祈願のため古宮の雑木林内に建立したものである。社殿は石造流れ造で、南を向いている。お祭りは九月十日に行われ、司祭は神官で行い、供え物はお酒・魚・野菜・果物・赤飯である。中大池上手西南端の「古宮」と呼ばれる雑木林に存在し、入口には別に富士浅間神社・薬師様が祀られており、お祭りは同日に行われている。

中大池には祝殿様が八社あり、社殿は石造の一社を除き木造で、造りはすべて流れ造である。

【小坂】

村誌「やまがた」の調査では、小坂地区の祝殿様は二十七社となっているが、今回の調査では二十四社を確認した。屋敷内の一隅や持地の山林に祀られていた。祝殿様として祀られている神は、稲荷、金山彦・熊野三社・昆沙門天・妙見菩薩・開戸大神・天白大神・三宝大荒神・日宮松樹霊・三崎大神・宇賀玉命等であった。

造りはすべて木造流れ造で、中にはスチール製の書棚の中に納められているもの、また写真の山口常会の稲荷社のように鞘堂の中に鎮座しているものがあった。二十四社の中で鳥居があったものは十二社で、お祭りは二月の初牛か農閑期に行ったというだけで、最近はお祭らしいことをやらない所もあったが、中には個人でお参りに来たのか、智水と銘のあるお酒が供えられているのを見て何か救われた思いがあった。



▶小坂 中川家祝殿



▲下大池橋爪東常会 村瀬家の祝殿

【下大池】

下大池区には祝殿が八社ある。祭神は六社が稲荷社で、うち伏見稲荷が二社、倉稲魂命（うがたまのみこと）が二社、熊野稲荷が一社、残りの一社は安永と文化期の棟札には飯綱大明神とあるが、弘化期以後の棟札には稲荷大明神となつてゐる。倉稲魂命の一社は素戔嗚尊（すきのおのみこと）が併記されているが、この家が江戸末期から造り酒屋であつたことと関係があるだろうか。

稲荷社のほかの二社は社宮司大神と西国二岩大天狗が祭神である。社宮司は延享三年（一七九六）の大池村検地帳に「社地九歩 社宮司武右衛門守之 宮建無之」と記載されている。



◀上竹田四ツ谷下常会 上條家の祝殿

【上竹田】

上竹田区の祝殿を調査しまとめてみたところ、二十二カ所に存在を確認した。

社殿の造りはすべて流れ造で、木造二十、石造二であり、祭神は稲荷様四、秋葉神社五、八幡神社二、その他十、不明一であつた。鳥居のあるのは五社で、様式はすべて神明鳥居であつた。

お祭りをを行う時期は春が十五社、秋が七社である。司祭については神官に依頼して行うものと祭祀者が自己にて行うものが半々で、同姓、親類、常会などの集まりが当番制で担当し、個人のみで行うものも六社存在した。社殿の方角については南向が十四社、東向が八社であつた。

それぞれ祝殿にまつわる伝承も二、三あつたこの話だが、地区の古老なども今は亡く、はっきりした言い伝えも聞かれない状況であつた。



◀下竹田 石川家の祝殿

【下竹田】

下竹田区には九社存在した。稲荷様が祭神として多い他、水神様、白山がある。鳥居があるのは四社であり、三社が神明鳥居である。お祭りは正月、春の初牛、花見の頃、秋祭の翌日、九月から十月の間と様々であるが、年に一回はお供え物をして大切に守つてゐる様子がうかがわれる。狼くぼの稲荷様だけが畑中の一本松の下に寂しそである。

村の名木・古木

清水高原のブナ

「山野草の会」の方々から、清水高原に大きなブナの木があるとの連絡を受け、さっそく見に行ってきた。

このブナの木は樹高が三〇m、幹回り二四五cmで、樹齢は約一五〇年と推定される。戦前までは清水高原においても方々で見られたブナの木であるが、木質が良く、良好な炭ができることから次々と切り倒され、今では山へよく入る人でさえ見かけなくなったとのことであり、今回の発見は良くぞ切られずに残っていたものだ、人々を感じさせた。元来ブナの木は日本海側に多く、県内では飯綱や白馬に行くとブナ林を見ることができ、松本平では松本市牛伏寺周辺などごく限られた地域にしか存在しない。

ブナの木は多くの生命を育み豊かな自然環境を作るため、人々の関心も高く、大切に守っていききたい木である。

◀清水高原にあるブナの木（写真中央）



鳥取県にて「竹田村見性寺」と刻まれた 廻国供養塔が発見される

去る5月末、鳥取県高郡青谷町の文化財調査委員長さんからこのような内容の手紙をいただいた。

「当町に散在している石造文化財を調査した所、山陰道路傍に『安永九年（1780）庚子六月廿日 信濃筑摩郡竹田村見性寺弟子 静誉寂蓮大徳』と刻まれた廻国供養塔を発見したので御教授願います。」

さて廻国供養塔とは、全国に66ヶ所ある霊場を巡り、法華経を納める修業を記念した石塔のことである。当時、全国的に廻国供養の信仰が盛んで、村内でも12基の廻国供養塔が建立されている。

ところで下竹田葉王寺にある廻国供養塔に「宝暦十（1760）庚辰天十月吉日 奉納日本廻国供養塔 竹田村願主 正誉覚雲大徳」がある。鳥取県の廻国供養塔に刻まれた「静誉寂蓮大徳」と葉王寺の「静誉覚雲大徳」はその名前が似ている。また葉王寺は見性寺の末寺であるから、この2人は共に修行に励み、「静誉覚雲大徳」が廻国供養の旅を終えたのを見た「静誉寂蓮大徳」が、10数年の後、竹田村を後にしたという想像がつく。そして鳥取県に立ち寄った際、縁あって廻国供養塔を建立したのであろう。約200年後の今日、郷里に紹介されたわけであるが、何が深い仏縁を感じてならない。

▶鳥取県にある廻国供養塔

